

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 各務原高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和7年10月3日(金) 13:30～15:30
- 3 開催場所 各務原高等学校 会議室
会議に先立ち、委員による授業参観(物理・化学・生物)を実施
- 4 参加者

会 長	長倉 守	岐阜大学大学院教育学研究科准教授
副 会 長	丹羽 文雄	各務原市立中央中学校長
委 員	小川 陽子	新生こどもえん園長
	古田 希雄	各務原市 市長公室 まちづくり推進課長
	堀 善子	各務原市 市民生活部 税務課長
	上杉 秀佳	本校PTA会計
学 校 側	野々山伸一	校長
	杉山 秀謙	教頭 高橋 美穂子 教頭
	高木 美希	事務長
	美濃輪智彦	教務主任 橋本 純 生徒指導主事
	水野 里美	進路指導主事 武藤 俊平 研修主事

5 会議の概要(協議事項)

(1) 学校施設及び生徒の様子について【授業参観より】

意見1: 落ち着いて真面目に学習に取り組んでいる。仲間と楽しみながら学んでいる姿がよい。以前は、大人に対して警戒する姿も見られたが、今はとても開放的な雰囲気があり、安心して生活している。

意見2: 教師に勢いがあり、授業全体に活気がある。また、教師の対応が穏やかで柔らかい。これにより生徒に安心感が生まれ、生徒と教師の信頼関係がしっかりと構築されている。

意見3: 校内の清掃が行き届いており、環境が整えられている。

(2) 令和7年度「学校評価」について

意見1: 「学校生活に満足している」と回答している生徒が9割以上となっている。これは、日々の分かりやすい授業、いじめに対する毅然とした指導、丁寧な進路指導、一人一人に寄り添った教育相談、生徒を主体にした文化祭等の学校行事や部活動、これらすべてが充実しているからこそ得られた結果である。

意見2: アドミッション・ポリシーについて夏の学校説明会等で伝え、入学後には学校長が訓話の中で、グラデュエーション・ポリシーを生徒にとって分かりやすい言葉で説明し、具体的に行動できるよう促していることが素晴らしい。教育目標の具現に向けて、どのように教育課程を編成するのか、カリキュラム・ポリシーを職員全体で共有し、学校運営を行っていくことが大切である。

- 意見 3 : 学校独自評価項目は、カリキュラム・ポリシーを反映した項目となっている。この項目については、特に学校として特に力を入れていきたい。その中の一つである「ふるさと教育」については、地域の歴史や人、事象との関わりを通して、自己の生き方や在り方を見つめ、人としてどう生きるかを考える総合的な探究の時間のねらいに迫り、それを評価項目として問いたい。
- 意見 4 : 行事や部活動等の特別活動を大切にしていることがよい。これからの未来を切り拓く人材には、豊かな人間性が求められる。挨拶等の基本的な生活習慣を確かに身に付けると共に、仲間と協働して主体的に学び、解決していける生徒を育てていくことが大切である。
- 意見 5 : 評価において「わからない」と回答している保護者が一定数いることは、想定内である。評価の際に、お子さんと話をしたり、お子さんの姿や様子を振り返ったりしながら判断していただくようよう呼びかけ、この機に改めて学校のことを理解していただくチャンスにしていくとよい。
- 意見 6 : 成長過程にある生徒たちは、小さな壁であっても心が折れやすい。そうした時にきちんと教師が見届け、寄り添っていくことが大切である。アンケートの結果から、教師がしっかりと生徒に向き合っていることが伝わる。
- 意見 7 : 学校評価や各種アンケート結果を基に、PDCA サイクルを丁寧に実施し、よりよい学校運営を目指し工夫・改善に努めていることが、確実に成果となって現れている。全体的に肯定的回答が多い一方で、「個人情報管理」「体罰」「いじめ」等の項目において、「あてはまらない」という回答があることを見逃さず、真摯に課題に向き合い、適切に対処されたい。
- 意見 8 : 「ふるさと教育」では、生徒自身が追究課題を選択することで、主体的に課題解決に向かい、自己の学びを深めることができている。今後も、自分たちが考えたことが実社会にて具現化される成功経験を積むことで、社会の一員として生きる喜びを存分に味わわせていきたい。
- 意見 9 : 若者がトラブルに巻き込まれやすい自転車の運転に関わる指導や消費者教育等において、各務原市としても連携・協力をしていきたい。ぜひ相談をしてほしい。
- 意見 10 : 保護者として今回の学校評価に回答をしながら、様々な気づきが得られた。学校評価は、保護者として我が子や学校に向き合うよいきっかけとなった。
- 意見 11 : ICT の活用について評価が低い。授業内での活用を初め、不登校生徒へのオンライン対応や緊急時の安否確認において、タブレットは有効な手段となる。今後、学校として検討をされたい。

6 まとめ

- ・第 2 回学校運営協議会では、学校より令和 7 年度学校評価について、評価結果及び分析（成果がみられる点とそれを生み出している要因、改善点とそれに対する具体的方策）を提示し、多方面よりご意見をいただいた。
- ・委員の皆様から得た意見を全職員で共有し、職員一丸となって改善を図り、教育活動を展開すると共に、令和 8 年度に向けて今年度の成果と課題を明らかにする予定である。